

# 支援プログラム

公開日：2026年3月1日

事業所名：Plus+days平塚河内校

法人（事業所）理念	一人ひとりに「できる！」喜びを、「分かる！」楽しさを。	営業時間	10～19時
支援方針	子どもたち一人ひとりが本来持っている力や良さを引き出し、	送迎サービス	あり
特色	4E：English（英語）、Education（教育） Event（イベント）、Exercise（運動）	活動形態	個別～集団
支援の領域	支援内容の例	見発の例	放デイの例
健康・生活	①ライフスキルトレーニング（LST）	①衣服の着脱（自分で服を着る、ボタンをかける、靴を履く練習）、食事のマナー（自分で食事をするためのスプーンやフォークの使い方、食事のマナーを学ぶ）、トイレの使い方（トイレの手順や、手洗いを含む衛生管理の基本を学ぶ）	①身だしなみ（鏡を見て、髪・服装・顔の汚れをチェックする、手洗いやうがい練習などの清潔習慣の習得、整理整頓などの掃除動作や習慣、簡単な調理（調理イベントなど）、あいさつ習慣、スケジュール確認と管理、買い物練習（金銭管理、社会場面でのマナー習得）、社会マナー（順番待ち）
	②感覚特性に応じた支援	②環境調整（イヤーマフやヘッドホンの使用、照明を柔らかい光にする、静かなスペース）、見通し支援（音が鳴る場面を前もって伝える、写真や絵カードで説明）、慣れる支援（苦手な音に段階的に慣れる練習、砂・スライムなどの感触遊び）	②自分の感覚特性を理解して行動する（ノイズキャンセリングヘッドホンや耳栓を使う、特定の素材や衣服を選択する）
運動・感覚	①粗大運動・協調運動・微細運動	①バランスストーン、平均台渡り、トランポリン、ボール投げ、キャッチ、ケンケンパ、ジグザグ走、マット運動（前転・くま歩き・ワニ歩き）、サーキット遊び（登る・くぐる・跳ぶの組み合わせ）	①体全体の動きやバランス、筋力の向上（サーキット遊び、マットや平均台、トランポリン、ボール遊び、キャッチボール、ドリブル、キック）、両手両足の動きが入る運動（ジャンプしながら手を叩く、左右の足でステップを踏む）微細運動（折り紙・切り絵）
	②ビジョントレーニング（視覚機能）	②ペン先追視（職員が動かすペン先を目で追わせ、滑らかに追えるよう練習）、壁の左右に貼ったキャラクターカードを順番に見せる・読ませる、ビーズ通し、ストローひも通し、輪投げや玉入れなど距離感を使う遊び、線なぞり、迷路、点つなぎ、ボールキャッチ（ゆっくり→速く）	②目の協応・追従（指やボールを目で追う、光や小さな物体を追いかける）、両眼協応（間違え探しなど）、眼と手の協応訓練（穴あけパンチやビーズ通し、迷路や線描き練習、ペグボードや積み木で形を作る）

本人支援	認知・行動	①ワーキングメモリ（記憶機能） ②教科学習（算数科）	①「後に続いて言ってね」復唱ゲーム、口頭指示ゲーム（例：『赤を取って、青を箱に入れて』）、伝言ゲーム（短い文→長い文）、しりとり、リズム模倣遊び、物の名前を順番に言って覚える（買い物リストごっこ）、絵カードの順番記憶（2枚→3枚→4枚と段階的に）、積み木模倣（見本を短時間見せて隠す） ②数字遊び、大きい小さいなどの概念遊び	①視覚的補助を自分で使えるようになる支援（メモ後り方、指示を文字や絵で示す、チェックリストやスケジュールボードの活用）、聴覚的補助（指示を短く、分かりやすく伝える、重要な部分を繰り返して伝える） ②学校のドリルや教科書から自分で学べるように支援する（学習の仕方）
	言語コミュニケーション	①発音・発語・語彙への支援 ②教科学習（国語科）	①②正しい舌・唇・あごの動かし方の習得、特定音（例：サ行・ラ行）の誤り改善支援、音の聴き分け能力の向上（聴覚フィードバック）、物の名前・動詞・形容詞の語彙拡大、カテゴリー分類の力（概念学習）、知っている語を使って説明する力の向上、意思表示の増加、自発語の促進、二語文・三語文への発展、コミュニケーション意欲の向上	①発音・発語の支援（スタッフがゆっくり・はっきり発音、鏡や口の動きを見せながら発音の練習、ロや舌の動きを図や動画で示す）、聴覚フィードバック（録音して自分の声を聞く、正しい発音と比べて確認する、音の長さや強弱を体感的に伝える、音遊び・リズム遊び（しりとり、繰り返しの韻を踏む言葉遊び、歌や手遊び歌で特定の音や音節を意識させる） ②学校のドリルや教科書から自分で学べるように支援する（学習の仕方）、教科に関わる概念の習得支援（図形、数など）
	人間関係社会性	①愛着や安心感への支援 ②ソーシャルスキルトレーニング（SST）	①決まった担当をつける（慣れるまでは特定の職員が関わり、関係形成を優先して、来所・帰りの対応、活動への誘導などを同じ職員が行う）、予測できる関わり方をする（声かけの仕方やルールを共通化し、日によって変わらない安心感を作る）、スキンシップや視線の合わせ方を工夫する（子どもが嫌がらない範囲で、同じ目線にしゃがんで話したり、距離を保ちつつ、表情豊かに応答する） ②あいさつ（対人関係の入り口となる「あいさつ」を状況に合わせて使えるようにする）、順番を待つ（グループ活動でのルール理解や衝動性のコントロール）	①安心できる環境作り（落ち着ける場所の確保、視覚的支援の活用、柔らかい声かけやスローペースな関わり）肯定的なやり取り（小さな成功体験を褒める、気持ちに「嬉しいだね」と言葉を添えて感情のラベル付けを行い安心感と自己理解が促進させる） ②感情の理解と表現（表情カードや絵本を用いて「この子はどんな気持ち？」と考える、感情の強さを5段階で表すなど視覚化する）問題解決と意思決定の練習（「遊びの中でけんかになったらどうする？」など具体的な場面を想定して、選択肢から自分で解決策を選ぶ）、協力・共同作業の練習（グループで工作）
家族支援	定期面談、日常相談（対面・電話・アプリ）			
移行支援・地域連携支援	関係機関との連携			
全体に関わる支援	視覚支援・認知行動療法・応用行動分析（ABA）・ポジティブ行動支援（PBS）・感覚統合支援			
研修	標準プログラム、校内研修、社内研修、外部研修（児発管、保育士、強度行動障害）、自治体集団指導研修			
主な行事等	保護者会、季節や学休日のイベント（花見、夏まつり、クリスマス会など）			